



# 子どもの貧困対策 実効性のあるものに



● 12月県議会で代表質問にたちました。

今、国際的にみても日本の子どもの貧困率が高いことは極めて異常です。世論に押され政府が作った子どもの貧困対策推進要綱は、貧困の定義や数値目標がないうえ、「財政確保のめどがないから」と経済支援策もないなど、極めて不十分。そうした問題点を指摘し、本県の計画がより実効性のあるものになるようただしました。

## 実態を見つめ直し進める 子ども対策は未来への投資

知事は、「経済的な困窮に止まらず、子どもたちの能性の選択肢を閉ざし、将来への夢と希望や人生を選択する機会を奪うことにもつながる」ので、「子どもの貧困の実態などから目を背けることなく、子どもの貧困対策は本県の未来への投資、子どもたち自身の未来への投資」「生まれ育った家庭の経済状況などに左右されず、夢と希望を持ち続けて育つことのできる環境整備に向け、取組を進めたい」との決意を述べ、早急に取り組むことを明らかにしました。

## 無料法律相談

- 1月30日(金) 午後6時～8時
  - 山本尚吾弁護士(高知法律事務所)
  - 場所 愛宕商店街 吉良富彦事務所 電話 855-9439
- ※人数の関係で対応しかねる場合があります。事前にお問い合わせくださると確かです。



### キラリンにゃんでも通信

挨拶もあります。

**私の教え子が制作 横浜山梨大阪の保育園** 筒井勝彦監督と制作の筒井厚さん、題字の弘光健二さんは共に高知市出身。厚くんは私の教え子です。映し出される子どもたちは一人ひとりの表情、言葉に引き込まれてしまいました。そんな保育では決して育まれることがない命の輝き、個としての人格が、見事に映像で捉えられ迫ってくる映画。初日の24日には監督と山梨の「森の幼稚園ピッコロ」の中島園長も来高し、ご挨拶もあります。



**映画「子どもとミライ」 愛宕劇場で二四～三〇日**  
虐待により幼い命が奪われる事件があった高知の皆さんに見てもらいたい映画です。大人の都合での子育てや保育ではなく、「子どもが主役」に徹した子育ての在り方を考えるきっかけとなる映画です。